

難関校に合格する!!

難関校に合格するために必要な力

最近では中学受験の専門情報誌が多く発行されるだけでなく、一般の週刊誌なども中学受験に焦点を当てるケースが増えてきました。特に一般の週刊誌や、経済系出版社など、受験専門出版社以外から発行される受験・教育関係情報誌などでは、難関校に合格した受験生やその保護者がインタビューに応じる記事なども見受けられます。そこで、「難関校に合格するために必要な力」を考えてみましょう。

1. 難問を時間内に正解できる力

入試で合格した受験生は、「難しい」と言われる難関校の入試問題で、高得点を獲得する実力があつたから合格したわけですから、「難関校に合格する力」＝「難問を正解できる力」と言えます。しかし、いくら難関校で難問が出題されると言っても、満点をとらなければ合格しないわけではありません。実際に難関校に合格している受験生も、たいていは各教科に弱点単元・ジャンルの1つや2つはあるものです。中学入試の合格最低点は5～6割台が主流ですから、

- ① 解ける難問と解けない難問を見極める力
- ② 解ける難問を確実に解く力
- ③ 基本問題は単元・ジャンルを問わず確実に得点する力が求められます。②+③の結果が合格ラインをクリアすれば合格します。

また、これらの力が備わっていても、50分のテストを100分かけて解いていたのでは合格は厳しくなります。塾で授業をしていると、難問に取り組む姿勢と実力はかなりあるのに、時間内では合格最低点の半分くらいしか進まないお子様がよく見受けられます。こうしたお子様は①の見極める力にやや難があるか、問題の文章を読んだり計算したり、問題文で示された資料から必要な部分を探したり、といった手際の良さ（「問題を解くための思考力」以外の部分）で損をしているケースが少なくありません。

これらの力は、入試直前の追い込み学習で飛躍的に伸びるものではありませんが、日常的なトレーニングで少しずつカバーしていくことは十分可能です。入試まで時間があるうちから日々練習することが大切です。

2. 課題点を見つけ出す力

例えば理科の生物分野では、見たこともない植物が出題されて、「そんな植物は身近なところに生えているはずはない」と言いたくなるようなことや、社会の地理分野で聞いたこともないような町について出題されるような、「奇をてらった問題」「重箱のすみをつつく問題」はかなり減ってきました。代わって、資料などを読み取って判断したり、性質や性格を見抜くような問題が増えていきます。

かつての算数は「〇〇算」といわれる文章題が全盛でしたが、最近では図形などの問題でどこに着眼するか、着眼点を見落とすと正解にたどり着けない問題が増えました。こうし

た問題で正解するには、日ごろから問題練習を積み上げることが大切ですが、それだけでなく、広い視野を持っていろいろなものに接することも大切です。受験勉強は塾・家庭教師だけ、と考えているのは間違いで、博物館などを見学したり、図書室で自分で調べる・まとめる、体験学習には積極的に参加する、といった経験が、「どこに着眼するか」という課題発見能力を鍛えます。雑学的知識も、こうした課題発見能力の強化に大いに役立ちます。

しかし、入試直前の追い込み期に入ってから、こうした経験を積ませることは時間的に無理ですから、小3・小4など、入試までまだ時間のあるうちにいろいろなことにチャレンジし、経験を積ませることが大切です。

3. 表現する力

最近では難関校だけでなく上位校・中堅校でも説明させる問題や自分の考えをまとめて書く問題が増えてきました。ところが、塾で授業をしていると、算数や理科などで結構ハイレベルの問題が解けているのに、「どうやって解いたの?」と聞くと、答えられないお子様が結構多いものです。国語や社会でも、良い答えを書いているのに「どうしてそう考えたの?」と聞くと、やはり答えられないのです。「なんとなく」「そんな気がしたから」「いろいろやったら、こんな感じになっちゃった」…。

まず、口頭で答えられないと、解答用紙に説明や自分の考えを書くことなどは出来ません。そのためには、自分がどうしてそのように考えたのかを頭の中で整理し、筋道を立てることが必要です。自分が考えた過程や根拠をハッキリさせることが大切です。こうしたことは、何も勉強を通してだけでなく、日常生活の様々な場でトレーニングが可能です。有効な手段はご家庭内で日常会話を通して理由や根拠を考えていくことです。「どこかへ行こう」「あれがほしい」といった会話に、「なぜ」「どうして」と問い返し、お子様自身にキチンと説明させることです。とかく、「なぜ」「どうして」と追求していくと、会話が理屈っぽくなり、疲れることもあるかもしれませんが、そこはTPOです。

次は、口頭で説明できることを、文章や図などにまとめられること。これは練習量を積み重ねなければ出来ません。ときどき、あまり作文練習をしているとは思えないのに、上手な文章が書けるお子様がいますが、こうしたお子様もある日突然文章が上手になったわけではなく、低学年からの積み上げが

今日につながっています。調べ学習の結果をまとめることなどは良い練習になります。文章や図にまとめることは、一種の技能(スキル)です。生まれつきの能力ではありません。時間をかけて練習すれば身につきます。

最後は相手の心情を考えて判断する力です。国語の問題で、2~3人の登場人物の行動や発言について、誰を支持するか答えさせた上で、その理由を問う出題などもあります。どの人物を選んだかで○×はつかず、選んだ人物とその理由や根拠がセットになって採点されるものです。このような問題では、登場人物の心情を追うだけでなく、受験生本人の判断力が問われます。判断力は受験テクニックで対応できる部分は少なく、日々の心がけが大きなウェイトを占めます。

4. 積極性・探究心・自主性

難関校が入学希望者に求める理想像は、学校によって表現は異なりますが、男女ともたいい「積極性・探究心・自主性」といったところです。難関校は校則などもそれほど厳しくなく、勉強ばかりしているようですが案外クラブ活動が盛んで、学習や生活面のフォローも中堅校に比べてあまりきめ細かくないのが一般的です。これは、12歳なりの「積極性・探究心・自主性」を持った受験生が入学してくる、という前提に立っているために、手取り足取りの指導の必要性が薄いだけでなく、高度な授業内容も、生徒一人ひとりの持ち前の探究心や積極性で何とかこなしていけるからです。確かに、難関校の入試問題を見ると、単に塾などで習った内容をそのまま解答用紙に表せば良いのではなく、「積極性・探究心・自主性」が旺盛でないと、なかなか合格ラインをクリアすることが難しい出題が多いものです。こうした力はお子様ご本人の性格や、今までの生き方が現れるものですから、一朝一夕に成長するようなものではありません。

ですが、こうした力を育むことは可能です。何事にも挑戦させ、少し努力すれば達成可能な目標を提示することで「諦めずに挑戦する姿勢」が生まれ、目標をクリアできたら精一杯ほめる、こうして達成感を背景に次に目標に挑戦する積極性が育っていきます。何かにこだわっているのなら、熱中する環境を作って、時間がかかってもとことん追求させる、途中で失敗しても責めず、くじけそうになる手前でそっとアドバイスする、追及した結果は大いに評価する、こうして満足感を背景に、徹底して追及する探究心が育っていきます。そして、身の回りのことから始まって、自分のことは自分でする、やると言ったことは責任を持ってやり遂げる、やり遂げたことは十分に認めることで、負担感が苦にならなくなれば自主性が育ってきます。実際の子育ては文章で書くほど単純なことではありませんが、常にこうした姿勢でお子様に接することで、「積極性・探究心・自主性」が育ちます。

5. 難関校に合格しなかったからといって「ダメ」ではない！

「難関校へのハードルは高い」と感じた方もいらっしゃるでしょう。ここまで取り上げた内容を見ると、解ける問題を見極める力や、受験勉強だけにとどまらずにいろいろな体験を積むこと、筋道立てて整理することや表現すること、「積極性・探究心・自主性」の育成など、本気で取り組もうとする

と時間がかかることばかりです。お子様も人間ですから、機会を与えても思惑どおりに動くとは限りませんし、期待通りの経験を積んでくれないこともあるでしょう。また、入試直前の追い込み学習に反映できるような内容はあまり多くありません。

多くの場合、難関校に合格するには、塾などで直接的な受験勉強に入ってから学ぶことばかりでなく、その背景となる積み上げに影響される要素が大きいようです。こうした積み上げは、ご家庭でのお子様本人の置かれた状況や、育ってきた環境によって大きく左右されます。このように書くと、追いつけない差があるように感じられるかもしれませんが、しかし、中高6年間は、お子様がご家庭から自立して自分の世界を形成し、一番大きく成長していく時期です。中高6年間を過ごしたお子様自身は、小6のお子様自身よりも大きく成長しているのです。ここがポイントです。

運良く難関校に入学できても、その学校が求める入学者の資質に合わない部分があれば、期待する学校生活は送れないでしょう。難関校でなくても、手取り足取りの指導から始まって、徐々に自主性を引き出しつつ、学習に取り組む姿勢を形成し、高い学力を身につけさせて卒業させる学校も少なくありません。親離れ、家庭離れして、学校や友人関係が生活の中心に変わっていくのが中高6年間ですから、12歳までの生活環境や生育暦は、高校卒業時点になるとほとんど関係ないと言って良いでしょう。

難関校には魅力的な点が多々あり、それがまた人気につながって難度が上がる原因になっていることは確かですが、学校選びで大切なことは、冷静にお子様の現状を分析し、理想を踏まえた上で、現状に相応しく、しかも将来の選択肢が広くて夢が描けるような学校を選択することです。実際には大変難しいことですが、こうした点を心にとめて、世間の評判だけに過度に左右されることなく学校選びを考えたいものです。